



こんにちは。この春、次女が希望していた大学に合格し、高校生のときとは違う日々が始まっています。授業も、部活も、アルバイトも、新しいことに挑戦する彼女の姿に、私もなにかに挑戦しよう！という意欲が湧いてきます。

話は変わりますが、先日私は誕生日を迎えました。ふと思えば1996年、52歳で亡くなった父の年齢を超えていました。父は、真面目で優しく誠実な人でした。葬儀は社葬で行われ、たくさんの方々が父を見送ってくれました。後日会社に行った際、役員や部下の方々のお話から、会社でも家でも変わらない優しく頼もしい父がいたことを感じました。書きながらふと我にかえて、娘や息子にとってそんな私の父とは全く違う自由気ままな父親になっているのを感じると啞然とします^^;

中学の頃、母の帰りが遅い日に先に帰ってきた父が「母さんがいない家に帰ってきててもなあ」とぼつりと言った一言に、母を大切に思っている気持ちが伝わってきたのを覚えています。

学校の先生方の暮らしのサポートをすることから始まった、ひまわりの家事代行サービスは、忙しい人の暮らしを支えることで、大切な人と過ごす時間や、自分のための時間をつくってほしい。元教師だった母のそんな思いからだったことはよく分かっています。

ただ最近になって思うのは、その“忙しい人”とは、母自身だったのかもしれない、ということです。

父が出張先で亡くなる前日の日曜日、母と二人である会の運動会に行く約束をしていました。

父はそれをととても楽しみにしていました。けれど当日の朝、仕事の電話が入り、母は仕事へ。父は一人で、お弁当を持って出かけました。父が亡くなったあと、母は「あのとき、どうして仕事を優先してしまったのか」と、とても後悔していました。

大切な人にできる一番のことは、ともに時間を過ごすということ。そして、その時間はいつまでもあるわけではないということだと思います。

最近、スタッフと話す中でも、「お客様が本当にされたいことは何だろう」「そのために私たちにできることは何だろう」そんな会話が増えています。私たちの仕事は、ただ単に家事を代わりにさせていただくことではなく、お客様が大切な人と過ごすための時間、心のゆとりにつながる時間をつくり出していただくこと、そんなことだとあらためて感じています。

新しい息吹を感じる今、もう一度初心にもどり、ひまわりサービスを知っていてよかった、利用していてよかったと感じていただけるよう、これからも一つひとつのご縁を大切にしていきたいと思えます。

お勧めの一冊 『カフネ』 (阿部暁子 著)

先日、本屋大賞の発表のニュースがありました。その際、昨年の受賞作についても話があり、家事サービスを題材にした小説とのこと。読んでいなかったなので、すぐに注文して読みました。夫と別れたばかり、そして最愛の弟を死因不明で亡くしたばかりの41歳の主人公。弟の遺言に従い、遺産を分けるため弟の元彼女と会うところから物語は始まります。弟の元彼女は、家事サービスの会社で料理担当で働く女性。あまりに心ない態度に、興奮し、疲労からその場に倒れます。その主人公を家まで送り届け、荒れた彼女の暮らしぶりを見て、冷蔵庫にあるもので料理をはじめます。そのとき作られた料理の美味しさに・・

物語は、家事サービスを行う会社として、共感することが多くありました。

カフネ（物語の家事サービスの会社のなまえ）では、「チケット」と呼ばれる制度に、私たちは「暮らしの学校」というかたちで、根底にある思いが同じだと、架空の会社かもしれませんが、とても嬉しくなりました。同業者としても、この時代を生きる一人としても、考えさせられ、心に残る一冊でした。



ひまわりサービス代表 村山 力

『自分の殻を破った瞬間』



皆様、お元気でいらっしゃいますか。
いつもお読みくださり、ありがとうございます(^ ^)

今回は私が自分の殻を破った時のお話をしたいと思います。

私がひまわりサービスに入った初期の頃20年くらい前、自律神経失調症で、何をするにもまず不安が湧く、体調を崩し休みがち、というのを繰り返していました。

ある日、お客様宅に伺う直前に、知人のことですごく動揺する出来事がありました。

不安で変な汗をかき、手は震え、地に足がついていないような、とてもお客様宅に伺えるような状態ではありませんでした。

会長の順子さん(当時は社長)に事情を説明し、「順子さん…すみません…。私…お仕事に行けません。お休みさせてもらえないでしょうか」と相談しました。

その時、順子さんは私に何とおっしゃったと思いますか？

「まどかさん、お客様があなたを待っていますよ。さあ、行きましょう!」と、まさかの言葉! 私はきっとお休みさせてもらえる…とっていたのです。

その瞬間に「行くしかない」と思い、心に充満していた不安を整理する暇もなく、お客様宅に飛び込みました。お客様のお顔を見た瞬間、笑顔で挨拶している私がいたのです!(やや引きつっていたかもしれませんが(笑)) 作業中も手が震えていたと思います。ただただ無事に終わるよう、祈りながらお掃除していました。2時間のお掃除が無事完了。

お客様はいつものように、「綺麗になって気持ちいい! ありがとう!」と笑顔で見送ってくださいました。



「こんな私にもできた! 頑張って行ってよかった!!」

私はとっても自分が誇らしく、嬉しさいっぱい事務所に戻りました。

順子さんは目を潤ませて、「まどかさん! よく頑張ったね!!」と迎えてくださいました。

今思うと、順子さんはどれだけ心配だったか…それこそ、祈る思いでいらしたと思います。

私を信じて任せてくださった順子さんに、本当に感謝しています。

あの瞬間から、人間はその場に立てばすごい力が出るんだ! なんとかなる! 大丈夫なんだ! と自分に対する信頼が芽生えました。

不安と心配だらけの殻を破った瞬間でした。

マネージャーになってからは、その経験がスタッフに対しての信頼に変わりました。

一人一人に対してはもちろん、どんなことでも、みんなで力を合わせればきっと大丈夫! と。

そして、お掃除を楽しみに待ってくださっているお客様がいてくださる、そのことが私たちの元気の源です!

皆様、私たちにお仕事をお任せくださり、本当にありがとうございます(^o^)



家事サービスマネージャー 佐藤まどか

勤続10年目に思うこと

みなさん、こんにちは！スタッフの前田です。

ひまわりサービスでは今、新しいスタッフを募集しています。

事務所前に貼ってあるその募集チラシを眺めながら、自分の入社当時のことを思い出しました。私は今年で勤続10年目になります。

パートとはいえ、こんなに長くひとつの会社で働いたことがなかったので、

続けられていることに自分でも驚いています。でも、その理由は明らか…こんなに温かく受け入れてくれ、どんな時も守ってくれ、全力で励ましてくれる会社はないと思うからです。

そんなひまわりサービスとの出会いは、入社5年ほど前。

以前から興味があった「整理収納アドバイザー」の講座に思いきって参加した時です。

講座を主催していたのがひまわりサービスで、最後にごく短時間、社長の挨拶がありました。

その時の社長の温かい雰囲気と、お話から「何よりも真心を大切にしている会社」ということが伝わり、こんな会社があるんだ！と、とても感動したことを覚えています。

そして「子どもたちがもう少し大きくなり、いつか働く時は、絶対にこの会社に入りたい！」と強く思ったことも、鮮明に記憶にあります。

その後、下の子が幼稚園に入るタイミングで、満を持して入社しました。

入ってまず最初に感じ、今も変わらず感じることは「もうひとつの家族みたい」ということ。

とにかく、会長、社長、マネージャーをはじめスタッフ皆が明るくて温かく、つながりを大事にしている、事務所はいつも笑い声に満ちていて…。

職種柄、チームで動くこともあれば個人でのお仕事も多いのですが、皆で高め合っていこうという前向きな空気があり、居心地が良いです。

また、急なものも含めお休みの希望を快く聞いてもらえることも大きく、無理なくお仕事できる環境のありがたみを感じています(マネージャーを中心に、スタッフ同士でカバーし合うベースがあります)。

素敵なお客様に出会わせていただき、楽しくお仕事させていただけることに心から感謝しながら、次は勤続20年を目指して！これからもひまわりサービスの一員であり続けたいと思う今日この頃です(*^^*)



整理収納アドバイザー
一級
前田直子

BBQメニュー 第2弾！『みたらし団子の豚バラ巻』

こんにちは、スタッフの林です。BBQを楽しむのに絶好の時期ですね。今回は、BBQメニュー第2弾、意外な組み合わせ『みたらし団子の豚バラ肉巻き』のご紹介です。

【材料】

- みたらしだんご
- 豚バラ薄切り肉
- 塩、こしょう

【手順】

- 豚肉を広げて置き、塩・こしょうを振る。
- みたらし団子を手前に置いて巻く。
- 全体をこんがり焼いたら出来上がり。

甘辛いみたらし団子が豚肉とよく合います。団子に豚肉を巻くだけなので、とても簡単に作ることができます。フライパンでコロコロ転がしながら、おやつにもおかずにもなる一品で、家でも作っています。よろしければお試しください。



林美代子



故郷での最後の同窓会！



風薫る5月！若葉の美しい季節を迎えております。
皆様、お健やかに過ごしていらっしゃいますか。
今年は5月2日から6日水曜日まで5連休！木金とお休みが取れたら9連休に。
ご旅行に行かれる事も、また何もしない『空』の時間を過ごす事も、心のままですね。
話は変わりますが、皆様の故郷はどちらでしょうか？
ご実家は、どなたか住んでいらっしゃいますか？ご実家にご両親、ご兄弟が居てくださるって本当にいいですね。故郷に帰りたくなるのは、両親が元気で居てくれればこそ！と聞いたことがあります。
今、その言葉の意味が胸に響きます。
私は5月21日、故郷鹿児島県沖永良部島での最後の同窓会の為、帰郷します。
実家で暮らしていた両親や妹の姿は無く、空き家になって久しい実家があります。使われる事のない、鉄筋コンクリートの二階建てのホテルだけ。場所は町役場の隣、南側に同窓会の会場のホテルが見えます。
人の出入りで賑やかだった実家。空き家になっているのを見るだけで、胸が潰れそうです。
時は巡り、樹々は茂り花は咲く。時期がくれば、庭にはバナナが実り、草抜きを頼んでいる方が、楽しみにバナナを収穫しています。
幸せな子ども時代を過ごした、大好きな実家です。ですが、一人で実家の鍵を開ける勇気が有りません。
母がいつも座っていたソファ。釣りが大好きだった父の自慢の大きな魚拓！壁には、父が撮影した沢山の写真が額に入って、今も飾ったままです。
屋敷の中に入り、周りを一周するつもりですが、泣かずに巡れるのでしょうか？
しっかり目に焼き付けて来たいと思っていますが、できるのでしょうか？
私は予定があり、一泊だけで神戸に帰ります。卒業生は150名余り。連絡の取れる人は120名。住所不明、また亡くなった同級生が30名余り。参加者は50名弱との事。脚に不安を抱えつつも、出席できる事がありがたいです。
大勢で暮らしていた実家。小学生の頃、夏の暑い日には、ガジュマルが木陰を作ってくれた築山。その築山で、母が作ってくれたカレーライスを友達と一緒に食べた事などが思い出されます。
皆んなが元気で過ごしていた日々を思い出します。
良い思い出だけ胸にしっかり収め、同級生たちとの再会、おしゃべりを楽しんできます。
皆様、周りの大切な方々と一緒に、心晴れやかな5月を過ごされますように。

村山 順子

現在
第2710号

村山順子の
日刊メルマガ

登録は
コチラから
お願いします♪



～編集スタッフのひとりごと～

こんにちは。若葉がまぶしい季節となりました。この時期になると、家族で何度も訪れたお気に入りの蒜山高原と大山へ行きたくなります。
緑が美しく、心癒やされる場所です。予定を詰め込まなくても、時間がゆっくりと流れ、何をすることもなく風に吹かれているだけで心地よく感じられます。
今年は、我が家の愛犬も一緒に出かける予定です。にぎやかで楽しい思い出がまた一つ増えそうで、今から楽しみにしています。今号もお読みいただきありがとうございました。
嶋岡 知里